



スパークス東方投資見聞録

第29号

発行日:2010年8月2日

アジア・ヘッジファンド・ランキング2010

ハイライト:

- アジアヘッジファンドTOP10
- 直近のアジアのヘッジファンドの状況
- 最後に

アジアヘッジファンドTOP10

今年も、ヘッジファンド業界を対象とした金融専門誌である「Institutional Investor's Alpha」の July/August 2010号にて、アジア地域における最新のヘッジファンドランキング「Asia Hedge Fund 25」が発表されました。これは、当レポートでも何度かご紹介していますが、アジア地域におけるヘッジファンドを運用資産残高順に上位25社をランキングしたものです。

アジアヘッジファンドランキング2010 TOP10

2010 Rank	Firm Name	Location	Firm Capital (\$ millions)
1	Value Partners	Hong Kong	5,700
2	Sparx Group Co.	Tokyo, Japan	5,178
3	Arisaig Partners	Singapore	2,877
4	Hillhouse capital Mgmt	Beijing, China	2,500
5	Bayview Asset Mgmt Co.	Tokyo, Japan	2,108
6	Target Asset Mgmt	Singapore	2,000
7	APS Asset Mgmt Co.	Singapore	1,700
8	Asia Debt Mgmt Hong Kong	Hong Kong	1,700
9	Artradis Fund Mgmt	Singapore	1,386
10	Pacific Alliance Investment Mgmt	Hong Kong	1,350

出所: Institutional Investor's Alphaの情報をもとに、スパークス・アセット・マネジメント作成。

(注) 運用資産残高は、2010年3月末現在の数値を同日の為替レートで換算の上、Institutional Investor's Alpha誌が分析・集計したものです。

今回のランキングでは、弊社グループは2位でした。今年1位になったのは、香港を拠点とするValue Partnersです。昨年も2位にランキングされているファンドで、主に中国やアジアの株式ロング・ショート・ファンドを運用しています。ボトムアップ・リサーチをベースとした調査・運用を行っており、昨年は23名の運用スタッフで、約2,500回の企業訪問をしています。口

ング・バイアス（ロングを多く持つポジション）を基本としていますが、今春は先物や個別銘柄で積極的にショートポジションを取る運用を行いました。昨年の運用資産残高の増加要因は、資金流入もありましたが、それよりもパフォーマンスが良好であったことが大きかったようです。3位はArisaig Partnersで、ボトムアップ・リサーチをベースとして少数銘柄に集中的に投資するシンガポールを拠点としたヘッジファンドです。4位はYale University Investment Office出身者が設立した北京を拠点とするHillhouse Capital Managementで、こちらもファンダメンタルズリサーチをベースとして少数銘柄に集中的に投資しますが、機動的に現金のポジションを上下させるといった特徴もあります。5位が東京をベースとしたファンダメンタルズ分析の日本株ロング・ショート運用を行うBayview Asset Managementとなっています。

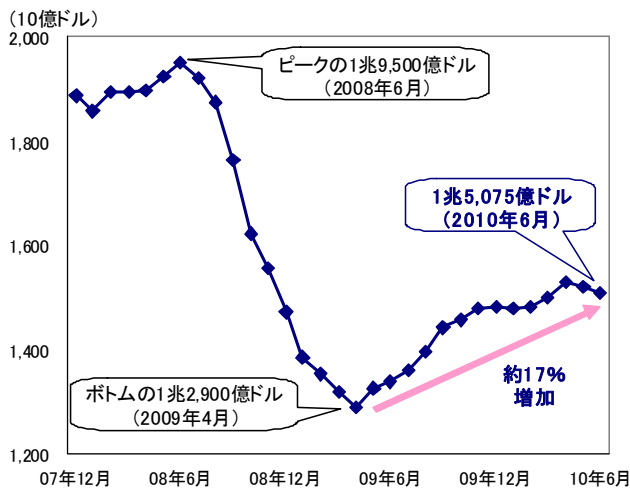
直近のアジアのヘッジファンドの状況

世界のヘッジファンド業界の運用資産残高は、2008年6月の1兆9,500億ドルをピークに解約超過に転じましたが、パフォーマンスの改善もあり2009年4月の1兆2,900億ドルで底打ちし、2010年6月現在では1兆5,075億ドルまで回復しています。

(次ページに続く)

アジア・ヘッジファンド・ランキング2010

世界ヘッジファンド業界の運用資産額
(2007年12月末～2010年6月末)



出所：ユーリカヘッジ

世界のヘッジファンドと同様にアジアのヘッジファンド業界も2009年は長引く金融危機の影響で、パフォーマンスの低下と解約に苦しみました。ヘッジファンド調査会社のHFR社によれば、アジアのヘッジファンド業界全体は、大きな解約は減少したものの、今年も4月までで約7億ドルの解約超過でありました。しかしながら、Asia Hedge Fund 25の運用資産残高は、年初からこの4月までで約20%増加しています。これは、資産規模の大きなヘッジファンドには、パフォーマンスの改善と共に資金が回帰し、一方、資産規模の小さなヘッジファンドからは、資金流出が続いていることを意味しています。直近、運用資産が上限

に達し、新規資金の受け入れを停止したファンドが出てきていることも、その顕著な例といえます。

最後に

4年連続でAsia Hedge Fund 25の1位の座を維持していた弊社グループですが、残念ながら今年は2位となりました。これは競合が躍進したこと、また長引く日本株市場の低迷も影響しています。しかしながら直近、弊社グループの日本株ロング・ショート、韓国株ロング・ショート、またアジア・マルチストラテジーなどのファンドも、運用資産が回復しつつあります。引き続き、リスクを抑えながら安定的なリターンを提供し、投資家の皆様から長期的に信頼される運用グループになるよう、努力をしております。今後とも、何卒よろしくご厚意申し上げます。

当資料は、スパークス・アセット・マネジメント株式会社がアジアの経済やヘッジファンド業界の情報を提供するために、スパークス・インターナショナル(香港)リミテッドの協力により作成したものであり金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。この資料は特定のファンドもしくは個別銘柄への投資勧誘を目的としたものではありません。当社およびスパークス・インターナショナル(香港)リミテッドとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものでなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・インターナショナル(香港)リミテッドに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。

投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式、公社債および不動産投資信託証券などの値動きのある証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されているものではなく、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等を要因として、基準価額の下落により損失が生じ、投資元本を割り込むことがあります。

ロング・ショート戦略のファンドは売建て(ショート・ポジション)取引を行いますので、売建てた株式が値上がりした場合、基準価額が下落する要因となります。また、ロング・ポジションおよびショート・ポジションの双方が誤っていた場合、双方に損失が発生するために、通常の株式投資信託における損失よりも大きくなる可能性があります。

また、ファンドオブファンズ戦略のファンドは、パフォーマンス連動債の発行体に対する信用リスクや、新興国市場への投資リスク、レバレッジの利用によるリスク等、ファンドオブファンズ戦略に特有のリスクも伴います。

上記は投資信託に係るリスクの一部を記載したものであり、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、お申込みの際は投資信託説明書(目論見書)および目論見書補完書面の内容をよくお読みください。投資信託は、預金商品、保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。登録金融機関は、投資者保護基金には加入していません。投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。

追加型公募投資信託に係る費用について

スパークス・アセット・マネジメント株式会社における追加型公募投資信託に係る費用の上限は以下のとおりです。

●直接ご負担いただく費用

申込手数料	: 上限3.15%(税込)
解約手数料	: なし
信託財産留保額	: 上限0.5%

●投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用

信託報酬	: 上限1.995%(税込)
実績報酬(※)	: ファンドにより、実績報酬がかかる場合があります。

※実績報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

ご留意事項

上記に記載しているリスクや費用の項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、スパークス・アセット・マネジメント株式会社が設定・運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なります。

投資信託の取得のお申込みをする場合には、販売会社から投資信託説明書(目論見書)および目論見書補完書面をあらかじめお渡ししますので、必ずお受取りになり、投資信託説明書(目論見書)等の内容をよくお読みいただいた上、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

スパークス・アセット・マネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第346号
(社)投資信託協会会員 (社)日本証券投資顧問業協会会員 日本証券業協会